

保育計画成果報告書

| | |
|---------|--------------------------------------|
| 法人名等 | 学校法人仙台みどり学園 |
| 施設名 | 幼保連携型認定こども園やかまし村 |
| 報告者（役職） | 小島 芳（園長） |
| 住所・連絡先 | 宮城県仙台市泉区野村字東原屋敷3-2 |
| | ☎ 022-739-7456 |
| | E-mail yakamashimura@ab.auone-net.jp |

○タイトル（保育計画）

いっぱい遊んでゆっくりおおきくなあれ！

○主な助成備品

木製肋木一式

1. 保育計画策定の目的

認定こども園やかまし村では「健やかな子ども」を育てることを大切な目的の一つと考え、様々な遊びを幼児期に行うことが、子どもの意欲を育てると考えて保育を行っています。その中でも特に運動的な要素の強い遊びは、小学校以降心配される子どもの運動不足の解消に寄与していけるのではないかと考えています。未満児、特に0歳児保育の1年間の身体的な発達著しく、乳幼児期に様々な体の部位を使った遊びをたくさん行うことで、子どもの身体の健全な発達が促されると考えています。そこで、未満児の部屋に肋木を置くことで、室内遊びで限界のある体の動きをさらに多様化させていきたいと考えています。そのような体験を0歳児から多く積むことで、子どもは体を動かすことが好きになります。また、体を動かすことを好きになる子は何事にも意欲が持てる子になるのではないかと考えています。また、新設園である、やかまし村の園庭はまだまだ整備の途上で、園庭の遊具も限られています。そのような事情から、上に上がるような動きをする遊具も少ないので、肋木で腕を使って上がるような動きを以上児でも頻回に取り入れたいと考え、保育計画を策定いたしました。

2. 具体的な実施内容

やかまし村では、子どもの主体的な遊びを大切にしながら保育を行っています。子どもたちは季節や天候に関わらず、日常的に全身運動を楽しみながら、身体、言語、認識の発達が促されるよう、環境を整えています。未満児では肋木、階段、すべり台等を部屋に設置して、日々「登る」「くぐる」「越える」「滑る」等の運動遊びができるように、環境を整えています。以上児ではホールにサーキットのように肋木等を設置して遊んだりすることもあります。

① 0歳児クラスでの活動

やかまし村では0歳児期からの遊びを通じた運動能力の向上を大切に考えています。0歳児期に身体をしっかりと動かし四肢全体を使って遊ぶことで、身体発達だけでなく子どもの発達を総合的に促すことができると考え、ハイハイが苦手だったり、少しいびつなハイハイなどをする時には傾斜を這い上ったり、階段を這い上がったような運動を楽しみながら取り入れることで次第に上手なハイハイになるよう促しています。写真のMちゃんはなかなかハイハイができず、自分で自由な移動ができないために抱っこを求めて泣くことが多かったのですが、上り板を使った傾斜でうつぶせをして遊んだり、同じクラスの子どもたちが肋木や階段、滑り台で遊ぶ姿を見て、自分でも少しずつ遊びはじめ、四肢をしっかりと使ったハイハイができるようになり、現在は自分で自由に上り下りしながら楽しんでます。

また、この肋木、階段、滑り台等は子どもの一人ひとりの発達や遊ぶ様子に合わせて設定を変えられるので、その時々の子どもたちの姿に合わせて多様な遊び方を楽しむことができます。0歳児クラスでも、組み合わせや用途を変え、年間楽しむ中でどの子も身体を動かして遊ぶことを楽しみ、様々なことに興味をもってやろうとする姿が多く見られるようになりました。



② 1歳児クラスでの活動

1歳児クラスでは歩行が安定し、ダイナミックな動きを楽しめるようになってくるので、子どもたちが登る、くぐる、越えるなどの様々な動きが複合的に楽しめる体験を日常的に取り入れることで、身体のしなやかさや、敏捷性を培いたいと助木での遊びを日常的に行っています。天候の関係で外に出られない日や、朝や夕方ちょっとした合間にも保育室に常時設置し、その日の子どもたちの人数や雰囲気に合わせて環境設定を変えながら年間を通して楽しんでいます。子どもたちは高いところまで登り、友だちや先生に「ヤッホー」と呼び掛けたり、橋に見立てた板を使って、絵本の「三匹のヤギとがらがらどん」をしたりする姿も見られました。友だちとごっこ遊びをすることで、より活発に体を動かす動機付けにもなったのではないかと思います。そんな姿から、いつでも遊べるように1歳児室に常設していたこともあり、1歳児の子たちは自分の身体を自在に動かして遊び、高い場所や不安定な場所でも自分の身体操作する力がしっかりと育ってきました。また、この助木遊具の特性として子どもたちが自分でどこに手を出して、足を出せば降りられるか等を自然に考えながら遊ぶのですが、この助木遊びで培われた「自分で確かめながら遊ぶ力」は、散歩先や普段の生活の中でも、「どこを通ると自分は渡れそうか」や土手を登るときに「どの木を持てば登れそうか」等、周りをじっくり見て確かめながら進んでいく姿などが見られています。このようなことから助木を使っての遊びは、運動能力の向上だけではなく、子どもたちの空間認知の能力等の向上にも寄与しているのではないかと考えております。



③ 以上児の活動

やかまし村は新設園だったために、園庭の複合遊具などが間に合わず、腕を使って、上へ上がるような動きをする遊びがなかなか生まれない現状がありました。そのためホールでサーキットのように肋木等を組み合わせ遊ぶ機会を多く設けています。

最初は保育者が組み合わせを提案しますが、遊び込むうちに子どもたちから組み合わせを変えたり、遊び方を変えたり、自分たちでルールを作るなどして、遊ぶようになります。以上児が遊んでいると、未満児もその様子に誘われて、遊びに混じることもあります。普段部屋で行っている肋木での遊びよりも、以上児と一緒に遊ぶ方が、難しいことに挑戦したり、少し危険でもがんばってやってみたりする姿も見られます。未満児にとっては以上児の遊びが刺激になり「挑戦したい」「もっとよりがんばってみたい」という意欲につながっているのではないかと考えています。

以上児の子どもたちにとっても、最初はできなくても、少しずつ挑戦するうちにできるようになるということがわかりやすいのか、長い時間遊ぶ姿が見られ、最初は「こわい」と言って渡れなかった一本橋が2時間後に渡れたりすると「できた！」と嬉しそうに報告したりする場面も見られます。また、腕を使って上へ上へと昇ったり、高い場所から飛び降りたりといった、園庭ではなかなか体験できない遊びをサーキットで楽しむことができるようになりました。最初は簡単な組み合わせから徐々に難易度を上げていくという柔軟性のある遊具ならではの遊びだなと感じています。



3. 成果と評価

○今回の助成により、より多くの種類の肋木を購入できたことで、多様な組み合わせが実現できました。そのことで、子どもたちが体を使う遊びも多様になり、さらに体の使う部位も多様になったのではないかと考えます。以上児に関しては、当初は上へ上がるような遊びが欲しいと思っていましたが、それだけでない多様な使い方も実現できました。そのことで、子どもたちの運動能力の向上だけでなく、挑戦したいという意欲や、できるようになるまでがんばりたいと思う継続する力なども随所で見られるようになったように思います。

○未満児、特に0歳児Mちゃんの事例を見てもわかるように、起伏や高低差の無い保育室だけでは実現しなかった体の発達をこの肋木を使用することで実現できたと考えています。ただ「ハイハイをきなさい」といくら0歳児に促しても、喜んで言うようになるわけではありません。0歳児であっても遊びの中で、自然に這う力を培っていくことが大切なのだということがわかりました。そのためには0歳児であっても子ども自らが「上りたい」「遊びたい」と思えるような仕掛けが大切だということがわかりました。

また、毎日の生活の中に肋木を取り入れることで、自然と移動に坂道を使ったり、階段を使ったりする機会も入ってきたことで、楽しみながら這うことを覚えていけたのではないかと思います。0歳児では子どもの成長発達を逃さず、丁寧に環境を整えていく必要があることを肋木を通して改めて確認しました。

○子どもたちが肋木を何かに見立ててごっこ遊びを楽しんだりする姿が見られたことは、予想外のうれしい成果といえます。やかまし村では絵本を大切に、毎日子どもたちと絵本をたくさん読みますが、未満児でもその絵本の世界を再現する力があるんだなということを確認することができました。また、滑り台や階段をひっくり返して車に見立てて遊ぶなど当初考えていた以上に多様な楽しみ方ができることがわかりました。



4. 今後の課題と展望

肋木を助成していただいたことで、当初考えていた以上の成果を得ることができました。しかし、未満児の部屋に常設しようとする、どうしても以上児が使う時に数が足りず、多様な使い方ができづらくなってしまいう面がありました。未満児の部屋から使いたい時にいちいちホールに運ぶというのも、時に「待っててね」と以上児に言わなければならない面もありました。今後の課題として、もう少し数を増やし、以上児と未満児が同時に使用しても問題にならないようにできたらと考えています。又、今回は運動能力テストは行いませんでしたが、今後運動能力テストで数値的な評価等も出せると、より成果がわかりやすいのではないかと考えています。